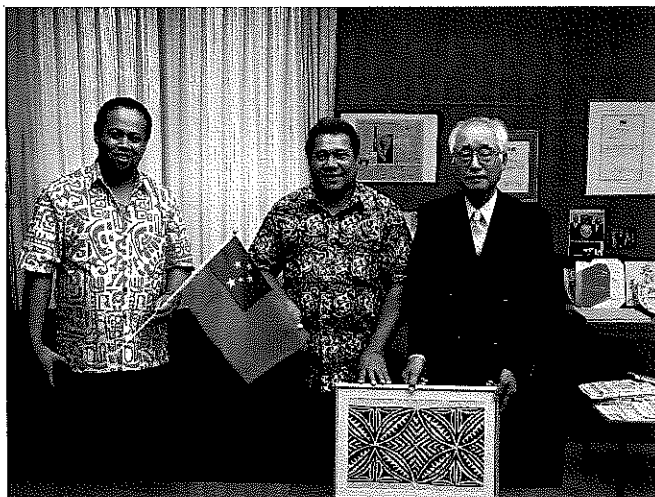


平成 26 年度北海道教育大学招へい
サモア独立国訪日研修報告書



平成 26 年 10 月 (2014.10)

北海道教育大学

国交流・協力センター

■本邦研修の意義・経緯

本年4月よりJICA草の根事業「サモア初等理科教育における問題解決型授業の展開」を開始した。10月の現時点では、短期、長期にて専門家(元小学校校長、本学附属小学校教員、本学教授)5名を派遣し、それぞれ算数及び理科公開型セミナーを開催し、延べ55名ほどの教員が参加、高い評価を受けて終了している。

一方、事業協力機関である、協力・スポーツ・文化省の職員を本邦に招へいし、日本の教育システム、小学校教員の問題解決型授業等を、実際に自分の目で見て理解・学ぶことは、今後の円滑なプロジェクト推進に、大いに貢献するものと思料し、今回本研修の実施に至った。

■本邦研修参加者

1. Sione Tafaomalo (50歳) 教育・スポーツ・文化省 カリキュラム担当職員(算数)
 2. Savelio Earl Ifopo (45歳) 教育・スポーツ・文化省 カリキュラム担当職員(理科)
- (※人選は先方機関に委ねた) 組織図等参考添付

■本邦研修受入期間

平成26年10月2日(木)サモア発 ~平成26年10月20日(月) 19日間

●日程(済み) 別紙1(日本語・英語)のとおり

■視察・講義での内容(要旨)

日付	時間	内 容	備 考
10/7(火)	10:00-16:30	講義:日本の子供の現状(平野准教授)及び日本の教育制度と教育行政(本間教授)について学ぶ 歓迎会開催(学生ホール)	JICA 初等研修コースに参加
10/8(水)	9:00-16:00	講義:学習指導要領、教育課程の特徴(追分教授)及び日本の教育課題、教育改革、教員養成制度(森教授)について学ぶ	JICA 初等研修コースに参加 教育課程の部分が重複していた。
10/9(木)	9:00-16:00	講義:日本の算数・理科教育とカリキュラム(鈴木、岡本アドバイザー)に関して基本的な大枠を学ぶ(導入部分)	
10/10(金)	9:00-15:00	視察:附属札幌小学校 校内授業研究「体育6年 すもう」 算数、理科小学校5年生の授業を見学	シオネ、リオ給食
10/14(火)	9:00-15:30	視察:市立大倉山小学校 理科(6年)植物 光合成 算数(5年)分数と小数	歓迎会 シオネ、リオ給食

10/15 (水)	9:00-16:00	小学校理科教材研究	JICA 初等研修コース に参加
10/16 (木)	9:30-17:00	視察:市立幌西小学校 理科(6年)水溶液の性質 算数5年)図形の過度を調べよう 講義:教科書の役割、重要性(サモアに 教科書はない)	シオネ、リオ給食

■プロジェクト今後の展望及び意見交換

I. プロジェクト進捗状況と方向性

- ① 「パイロット校教員が自ら指導案を作成し、研究授業を行う」out put に関しては、遅れ気味である。
- ② 「公開型授業研究会に参加した周辺校の教員は、身近な素材を活用した教材開発を行う」これは如何か?セミナーでの実施テーマは教員の参考になっているのか?
学んだトピックをすぐに授業で実践している先生も数人いる。
- ③ 問題解決型指導書マニュアル及び算数・理科教材副読本を作成について
■来年度から徐々にとりかかっていく。セミナーで取り上げた題材を、どの先生でも、それを見れば取り扱える形でまとめていきたい。おそらく算数、理科ともに20ページ以内の副読本になるのではないか。
- ④ 地域ブロック研修の定期的開催、既存研修との連携
■過去の教育省主導の研修参加者及びオープンセミナー参加者リストが欲しい。また、教育省主催における年間開催研修数は?
過去のリストはない。各校校内研修のみの開催で年1~2回程度である。今年度のセミナー参加者リストは、水口さんが作成している。

II. 今後の専門家派遣予定

2月8日~18日追分教授及び仮谷、その後、附属小学校教員の派遣となる。
11月末に函館附属小学校の都合を確認次第決定する。
来年度は、今年と同人数、同期間の派遣を予定している。但し、長期専門家は、JICAとも要相談であるが、3ヶ月連続ではなく、1ヶ月と2ヶ月に分けたい。
70歳以上の高齢者派遣は望ましくないという大学側判断もあるので、人材の確保という問題もある。
水口さんの一時帰国は、3月中旬頃~1ヶ月ほどを今のところ考えている。

III. 2015年パイロット校の変更必要性

サイナ校の校長が体調不調ということで、アピア小学校への変更は如何か?
サイナ校長は、体調回復しているので変更は特段必要ない。

IV. 本学の学生短期派遣（全くの別プロジェクトとして）

2016.2月～ 約1ヶ月、最大人数5名、ウポル島のみにおける活動を計画しており、現在ウポル島内約100小学校の教員データ収集活動を考えているが、如何か？どのようなデータが教育省にとって有効か、活用できるのか？

□教員が教える際の苦手な単元（算数、理科、社会）などの情報収集がいいのではないか？また、理科、算数の教具、実験器具の有無、数なども調べて欲しい。データ収集課という新しい課が省内に設置される予定でもある。

V. 鳴門教育大学との連携

鳴門教育大で勉強し、帰国した人たちも当該事業に取り込むことは如何か？

□省内には3名いるが、内1名はリタイアした。当プロジェクトに協力してもらうことは可能である。

VI. 今回の本邦研修で気づいた点、再確認した点、サモアプロジェクト（或いは教育に）に活用したい点など各自3点程度に教えて欲しい。

(シオネ)

- ① 小学校教員の授業教授法の技量の高さ
- ② 実際授業で使用できる、教材が揃っていること。これは、各クラスに設置されているオーバーヘッドカメラも含む。子供達に視覚的に学ばせるのには大変良い。
- ③ 教室において、先生と生徒の信頼関係が構築されている感じが強い。
- ④ JICA 初等研修で受けた、鈴木アドバイザーの算数講義が素晴らしかった。
- ⑤ テキストの必要性を再認識できた。予算がかかることも理解しているが、とにかくこのプロジェクトが終了する前に、色々意見をもらい内容をつくりあげ、書くことから始めたい。私とリオでやってみせる。

(リオ)

- ① ICT 技術を使った教授法が一番印象に残っている。
- ② 子供達が1日授業終了しても教室に残りたいという良い雰囲気を作り出している。
- ③ 黒板の使用方法が、どの教員も上手い。

■担当・引率者 仮谷所見

本招へい研修は、当初の予定になかったもので、準備期間も限られていた中で、どれほどの成果があがるのか、半身半疑であったが、結果実施して良かった。

先方教育・スポーツ・文化省の中心となる二人と短期間ではあったが、意思疎通を交わすことができたことが、一番の大きな収穫であった。

また、大学関係者、特に派遣経験のある作原先生、追分先生、大橋先生も、一生懸命引率、指導などして頂き、大変助かった。

今後は、現場で中心となってくれるパイロット校の校長先生なども招へいし、実施できることが望ましいと感じた。

■実施経費(精算)

項目(内容)		支払先	単価			小計
1	旅費(シオネ・リオ)					
	航空賃(サモア～日本往復)	JTB	294,510	×	2名	589,020
	国内交通費(航空賃) 千歳→羽田	JTB	30,140	×	2名	60,280
	国内交通費(JR)	JTB	10,120	×	2名	20,240
	宿泊費	シオネ&リオ	174,400	×	2名	348,800
	日当	シオネ&リオ	47,900	×	2名	95,800
	旅行雑費(査証取得費)	日本大使館	3,639	×	2名	7,278
	旅行雑費(査証取得費)	ニュージーランド大使館	12,347	×	2名	24,694
	旅行雑費(海外傷害保険費)	National Pacific Insurance Ltd.,	19,975	×	2名	39,950
	航空賃(仮谷 千歳→羽田)	JTB	30,140	×	1名	30,140
	航空賃(仮谷 成田→千歳)	JTB	29,850	×	1名	29,850
	国内交通費(JR)	JTB	12,260	×	1名	12,260
	宿泊	仮谷 宣昭	21,600	×	1名	21,600
	日当	仮谷 宣昭	11,000	×	1名	11,000
2	通訳傭上費	久保 紀子	25,000	×	4日	100,000
	10/10, 10/15, 10/16, 10/17					
3	入館料	旭川市科学館	400	×	3名	1,200
	旭川博物館	旭川市博物館	300	×	4名	1,200
4	講師謝金(10/16)	作原 逸郎	4,000	×	3.5時	12,000
5	送別会費	ホテルアスペン	5,700	×	11名	62,700
合計						1,468,012